

Message

「災害は、まさか。 自分の身は自分で守る」



田川 光昭さん(69)
田川 恵美子さん(69)

▼今思うと、その頃から少しずつ海も自然も変わりはじめていたんでしょね。50年ほど前、父が漁師をやめてエノキダケ工場を建てたんです。大きな借金もして家族は反対したのですが、不知火海で魚が捕れなくなってきたからなのでしょう。私は当時、車のディーラーに勤めていましたが、朝早くから夜遅くまで働く両親を見ていた姉から「一緒に働きなさい」と言われ、泣く泣く会社を辞めました。でも結果的にはそれで良かったと思います。時代にも合っていたんでしょうね。

想像していませんでした。海辺に国道266号バイパスも出来て、少し安心していたところもありました。幸い自宅までは潮は来ませんでしたが、家から下を見たらまるで地獄絵図。エノキダケ工場は高潮に襲われめちゃくちゃに。エノキダケや機械が散乱し、誰かの自動車が流されてきてひっくり返っていました。一瞬にして職場と収入源を奪われ、しばらくは呆然として何も考えられませんでしたね。

被災して、普通の生活のありがたさが身に染みしました。災害は「まさか」。自分の身は自分で守らないと。

Message

「完全な防災は不可能。 早めに避難しかない」



西田 誠也さん(71)

▼「あの日」、台風18号が接近して一睡もせず起きていました。でも危機感はそのほどありませんでした。最初は油の臭いでした。外の灯油タンクが川からの水で倒されていました。辺りは、最初は高潮ではなく川の水が氾濫していたんです。

2階に避難して外を見ると、隣人が、家の間の2〜3mの道を泳ぎながら逃げてきました。玄関は水圧で開かず、窓から4人を引き上げました。薄明かりの中、潮が渦を巻いていました。

近くの平屋建ての住宅に住む人がどうしているか心配でしたが、到底

1999年(平成11年)
9月24日未明

不知火町松合で 高潮災害が発生

12人の犠牲者

住家の全壊47棟 半壊37棟
床上浸水163棟
(不知火町)

高潮から20年 あなたの命を守るために 「あの日」の高潮を松合で体験した 4人からのメッセージ

▼「あの日」は風がとても強く、早朝でしたが夫婦二人、目は覚めていました。風で飛んだ瓦でサッシが割れ、子どもたちも起きてきました。停電で真っ暗な中、下の子が「お母さん、玄関から水が入ってきよる」って言ったんですよ。

油の臭いと猫の鳴き声がありました。すぐに「上に逃げなん」と思いました。平屋だから上は天井。素手で天井を破って、子どもたちと妻を上げ、自分が上がった途端、部屋中に潮がガッとききました。「わーこれで終わりか」、そう思いました。天井を剥がしたせいで手は痺れ、あとは額でやるしかない。何回も頭で突

き上げてやっと瓦が浮きました。だけど、外は風が強くて目も開けられない。こらあ子どもたちを屋根に上げてしまったら体力が持たないだろうと思いました。

その時、薄明らくなって周りが見えだし、潮が止まると少し落ち着きました。大分水位が下がった時、消防団3人が助けにきました。生きることというか「子どもたちを助けなにかん」ということで必死でした。災害はいつどこで起こるか分かりません。早めに避難し、自分の命は自分で守らなければなりません。

Message

「早めの避難しかない。 自分の命は自分で守る」



鳥井 義孝さん(66)